第７章　考察

本調査から、あいさつや声かけに積極的で、地域の活動への参加経験やネットワークのある区民がいる一方で、隣近所で困っている人への手助けや地域活動への参加など「将来はできそう」「関わりたい」との思いを持ちつつも、実践できていない人が多いことがわかった。地域福祉保健の推進という点からは、これらの、思いを持ちつつ踏み出していない人が地域に関わるためのきっかけや場をつくることが重要となろう。

また、地域活動への参加経験や近隣への声かけなど、地域との関係に積極的な人は健康観が高いことが分かった。地域とのつながりが、個人の健康づくりにもつながると考えられる。

さらに、地域の活動や人のネットワーク、活動の情報などについての「自治会」の重要性も改めて確認された。

以下、アンケートの構成にそって、回答の特徴的な傾向や、地域福祉保健計画の視点で着目すべき点などをまとめる。

①　回答者属性

・アンケートでは、各地区、各年齢層からの回答が得られたが、60 歳代・70 歳代がそれぞれ２割を占めるとともに、65 歳以上の割合が、過去の調査よりも高くなるなど、高齢化を反映している。しかし、回答者の 65 歳以上の割合は４割近くで、区民の高齢化率よりも高く、シニア世代から積極的な回答があったと考えられる。

・地区別にみると、全地区で居住歴が「10 年以上」の人が多いが、中でも竹山地区では「10 年以上」が 94.6%と多くなっている。長津田地区や鴨居地区では他地区に比べ居住年数の浅い住民が多くなっている。あいさつや声かけは、竹山地区や十日市場団地地区など、古くからの集合住宅団地の多い地域で積極的に行われていることがわかった。

②　各設問の結果のまとめ

地域との関わり

・自治会加入率は、前回調査（83.9%）よりも若干下がった（81.2%）とはいえ、８割以上を維持している。

・居住歴との関係でみると、居住歴が長いほど自治会加入率が高く、また居住歴５年未満と５年以上で加入状況が大きく変わっている。

・地域のイベントへの参加経験は半数以上がないと回答し、参加したことがあるのは４割台にとどまっている。参加した内容では、自治会活動に関連するものが大多数で、「地域での活動」の中心を自治会が担っていることがわかる。

・あいさつや声かけに積極的な人は、助け合いの経験も高いことが分かった。また、自治会加入者も、非加入者に比べ、助け合いの経験が高くなっている。

地域でのボランティア

・隣近所への手助けを実際に行っている人の割合は低い（最も多い「安否確認の声かけ」が 6.5%）が、将来できそうなことという設問では、半数の人が「安否確認の声かけ」を選択

するなど、地域での見守りの必要性は認識され、協力の意識も高いと言える。
・地域のボランティア活動に参加するための条件は、「気軽に参加できる」（59.6%）や「自分のやりがいや生きがいになる」(26.5%）や「自分の趣味や特技にあっている」(22.8%）の回答が高くなっている。気軽さとともに、自分がやることの楽しみや意義を見いだせることが、重視されている。

地域活動の場
・ボランティア活動などに参加することについて、「機会はないがいずれ参加したいと思っている」という回答が３割近くあった。他の設問の地域活動への関わり意向や隣近所への手助けと同様、意識を持ちながらもきっかけを得られない人が多くいることが分かり、このことに対しては、情報や機会を提供して行くことが求められる。
・また、地域活動の施設に求めるものとして「気軽に集まれるスペースがあること」を半数以上（51.3%）が回答しており、こういった場の整備も、これまで地域の活動に参加できなかった人が活動に参加したり、地域との関わりを深めるきっかけとして重要であると考えられる。
・自治会の加入状況でみると、加入者は、参加しているかどうかに関わらず、「機会がある」という回答が多くなっている。

福祉保健に関する情報
・地域の福祉保健に関する情報では「健康づくりや検診の情報」が求められている（全体で50.3%）が、年代により、知りたい情報は異なっている。
・情報の入手手段は従来からある市の広報や回覧板・掲示板などの回答の割合が高い（ともに約６割）が、インターネットがそれに次いで４割を超えている。回答者の年齢層が高いことを考慮すると、インターネットになじんだ世代が成長する今後は、インターネット利用による福祉保健情報の入手は、さらに高まることが考えられる。
・自治会加入状況別にみると、加入者の方が、非加入者に比べ知っていると回答した福祉保健に関する資源（組織や委員・施設など）の選択肢が多くなっており、自治会を通して福祉保健の資源と接していることが分かる。
・また、あいさつや声かけに積極的な人も、福祉保健の資源をよく知っていることが分かった。

安全安心
・水や食料の備蓄や家具転倒防止など「自助」に関することや、広域避難場所の認知などは意識が高いものの、地域の防災訓練への参加や最も身近な避難場所であるいっとき避難場所の確認、地域防災拠点の確認などは低く、防災面での「共助」の実践はまだあまり高くない。
・しかし、「自主防災組織づくり」を必要な取組として回答する人は多く（全体の 53.1%)、共助の重要性は意識されている。

健康
・自分自身の健康については、年代による差が大きく、若いほど「よい」「まあよい」の回答

が多く、高齢の方が「よくない」「あまりよくない」の割合が高くなる傾向にある。
・あいさつや声かけの状況でみると、あいさつや声かけを積極的にしている人は、自分が健康であるという意識を持っている。

地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の認知度
・「知らなかった」が４分の３近くを占め、認知度は低い。
・とくに重要な福祉保健の取組としては、６割が「安全・安心・健康」を挙げ、地域でのつながりのあるまちづくりがそれに次いでいる。

③　自由回答

自由回答の設問については、「緑区の福祉保健のために、10 年後も大切だと思うこと」には４割近く（37.9%）、「『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区の福祉保健に対する意見」では２割を超える記述があった。

両設問の主な意見（要旨）をテーマごとにみると、次のようなものがある。

なお、「『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区の福祉保健に対する意見」については、「このアンケートで計画のことを知った」というものが多くなっており、今後も周知・広報を充実させて行く必要がある

〇高齢化・高齢者
・高齢者の支援策（体制）、施設、介護保険などの充実
・高齢化社会に対応したまちづくり（防犯、買い物の利便性、安全に歩ける道）
・高齢者の居場所、生きがいづくり
・高齢者への情報提供、ニーズ把握

〇子ども
・子育て支援拠点「いっぽ」などを利用、今後もあるとよい
・10 年後を考えるなら子どものことが大事
・安心して子どもを産める場所・環境、子どもがのびのび育つ環境
・子どもの教育
・子どもの安全安心なまち

〇つながり・助け合い・コミュニティ
・近所の交流
・あいさつ、声かけ
・安否確認
・連携（住民同士、学校と地域、世代間交流）
・孤立防止

〇健康
・体力維持・増進

・介護予防
・医療機関の充実

〇情報・相談窓口
・高齢者への情報提供、ニーズ把握
・身近に相談できるところの設置、相談事業の拡充
・広報の充実・情報発信の強化

〇計画について
・このアンケートで知った
・もっと広報すべき
・計画への期待、重要性
・計画がわからない